

土壌調査について

土壌汚染対策法に基づく調査の流れ

- 3,000㎡以上の土地の形質変更を行う際に、土地に汚染のおそれがある場合は、調査を実施
- 調査は、指定調査機関が実施

地歴調査

対象事業実施区域は、焼却施設、一部を埋立地として利用

土壌調査

調査対象範囲を10m×10mに区画し、土壌を採取・分析(計208区画)

対象物質は、砒素、水銀、鉛、カドミウム、六価クロム

土壌調査の状況
(P2.上段資料)

基準超過判明

208区画のうち、1区画で基準を超過
(砒素溶出量)

汚染物質の摂取経路の確認

周辺の井戸調査
⇒(結果)飲用井戸なし

深度調査

超過区画の汚染範囲
(深度方向)の調査

区域指定(今後)

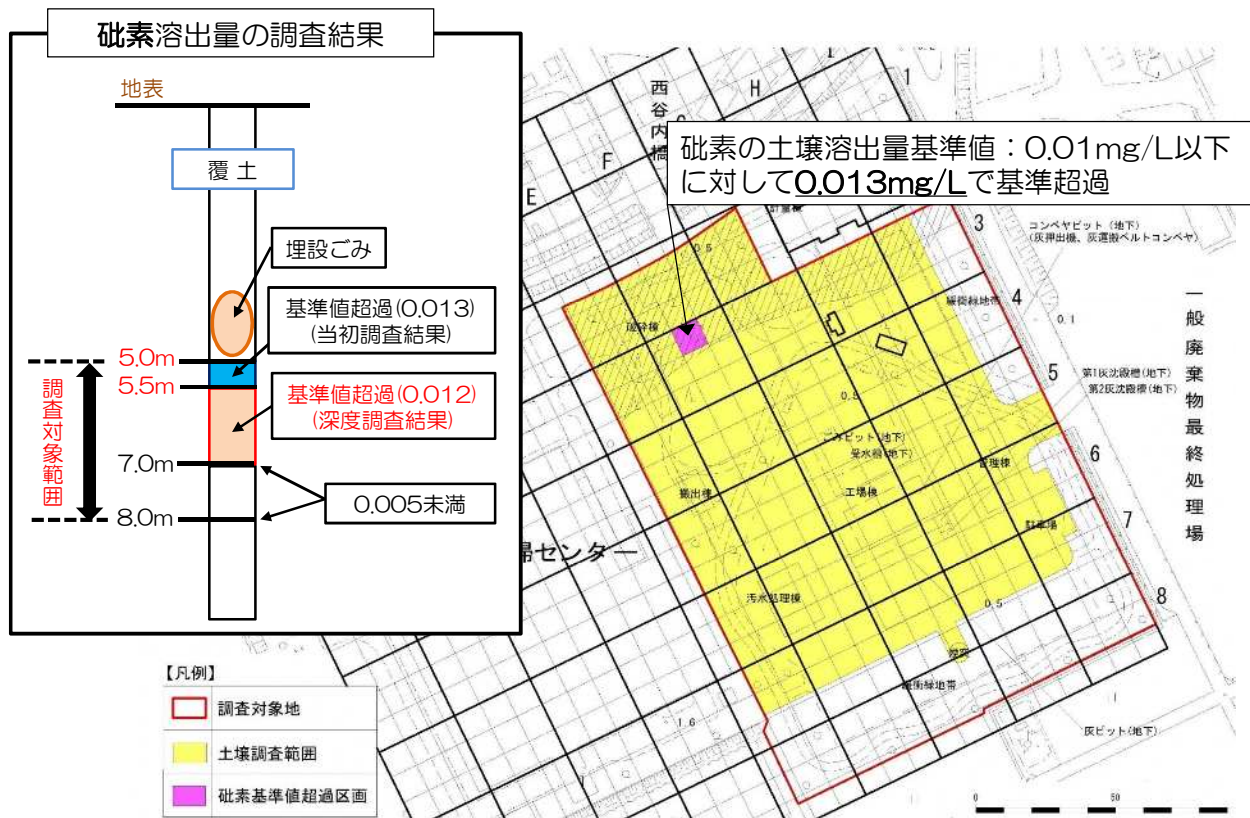
- ◆ 要措置区域 :健康被害が生ずるおそれあり
⇒土地の形質変更原則禁止
- ◆ 形質変更要届出区域 :健康被害が生ずるおそれなし
⇒土地の形質変更時届出が必要

周辺環境調査 (環境対策課)

汚染区域周辺の
状況調査
周辺地下水の確認
(井戸3箇所)

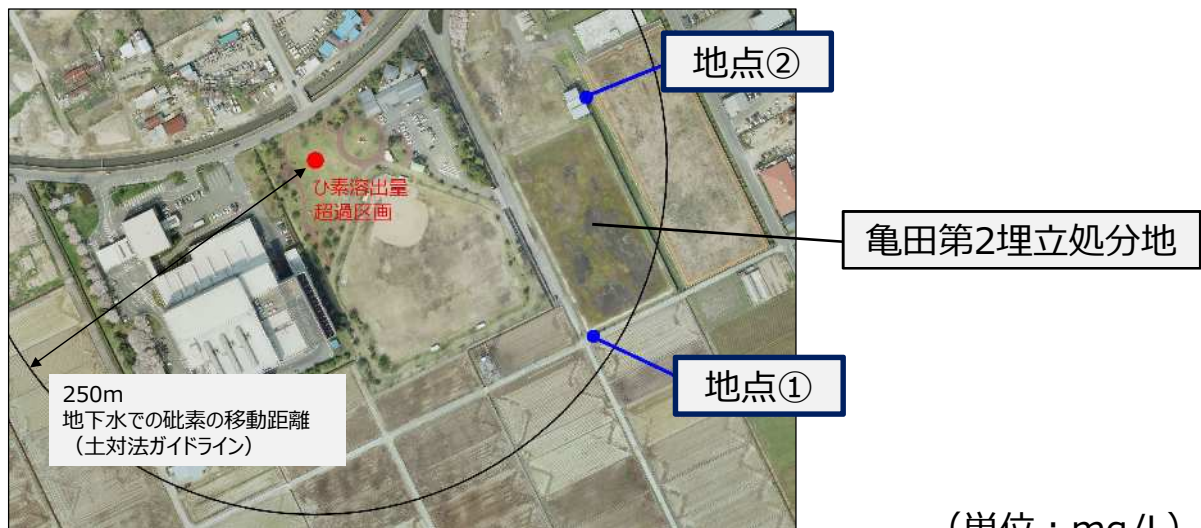
地下水調査の状況
(P2.下段資料)

土壌調査の状況



1

地下水調査(周辺井戸)の状況



(単位 : mg/L)

場所	調査結果	環境基準
地点① 亀田第2埋立処分地周縁井戸 (南西)	0.070※	0.01
地点② 亀田第2埋立処分地周縁井戸 (北東)	検出されず	
地点③ 山崎排水路北側民地井戸※	0.040	

※ 井戸は、ごみ埋立区画の外側に設置。

埋立区画内の浸出水で砒素の検出がないため、埋立地の影響ではないと考えられる。

※ 地点③は民地のため非公表